

7 「宇治っこ架け橋プログラム」(宇治市版架け橋期のカリキュラム)の作成に向けて

育みたい資質・能力を踏まえ、架け橋期の教育・保育については、施設類型を越えて子どもの成長を切れ目なく支える観点から「宇治っこ架け橋プログラム」(宇治市版架け橋期のカリキュラム)の作成に向けて協働していくことは、その後の育ちと学びにつながることも重要です。

<「5 歳児のカリキュラム・スタートカリキュラム」の共有>

入学後の授業計画や卒園前の保育計画を交換するなどにより、卒園・入学前後の取組について情報共有や相互理解しながら、「5 歳児のカリキュラム (アプローチカリキュラム)」「スタートカリキュラム」を共有・改善していくことが大切です。

「5歳児のカリキュラム
(アプローチカリキュラム※)」とは



小学校の先取りの教育ではなく、小学校以降の教育を見通しながら、その基盤となる資質・能力を育成していくことを踏まえて、教育活動を実施するためのカリキュラム

※文部科学省として正式に使用している用語ではありませんが、小学校以降の教育との接続を確かなものにするために、各自治体において進められている取組のひとつ。
名称や内容、時期の捉え方は自治体によって異なります。

「スタートカリキュラム」とは



小学校へ入学した子どもが、幼稚園・保育所・認定こども園などの遊びや生活を通した育ちや学びを基礎として、主体的に自己を発揮し、新しい学校生活を作り出していくためのカリキュラム

<宇治っこ架け橋プログラム(宇治市版架け橋期のカリキュラム)の検討・開発>

架け橋期の2年間について、就学前施設と小学校が協働し、共通の視点を持ち教育課程や指導計画等を具体化できるよう、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりとし、育みたい資質・能力を視野に入れながら検討・開発していきます。

幼稚園・保育園・認定こども園	架 け 橋 期 (5歳児・小学校1年生)	小 学 校
遊びの中に見られる学びの芽 幼児期の教育は遊びを通して学びです。遊びの中にどのような学びがあるかを知ることが大切です。 「はなびだいがい」の遊びの中で 楽しかった夏祭りから発想を得て、年長児のみんなは「はなびだいがい」を計画。前日や前週のコーナー遊びに基のみんなを招待した後、花火が打ち上げられました。 遊びの中の学び 花火の出し方、音、タイミングなどを相談し、試行錯誤しながら遊びを盛り上げます。思いや考えを伝え合い、表現するなど「思考力・判断力・表現力の基礎」が育っています。 しりとり遊びの中で 辞書前のひとと「りんご」「ごりら」「らっぱ」「ばせり」…思いついた言葉をつなげ、しりとりをしています。最後はみんなと一緒に読み合っており、言葉のリズムも楽しんでいます。 遊びの中の学び 知っている言葉を伝え、つなぐ楽しさを味わいながら、辞書の量を増やし、文字にも関心をもちます。できたりとりを友達と一緒に読むことで、一体感を味わっています。	資質・能力が育てられている幼児の具体的な姿として、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿) ・健康な心と体 ・自立心 ・協同性 ・道徳性・規範意識の芽生え ・社会生活との関わり ・思考力の芽生え ・自然との関わり・生命尊重 ・数量や図形・構図や文字などへの関心・感覚 ・言葉による伝え合い ・豊かな感性と表現 【掲載】5/18幼児教育と小学校教育のカリキュラムコンソーシアム開催 原田校長先生挨拶 宇治市立 南小中学校 南小中学校 南小中学校	幼児教育の連続性を意識したカリキュラム 遊びと学びの「つながり」を意識した授業改善に取り組むことで、「主体的・対話的で深い学び」を実現します。 総合的・関連的な授業(スタートカリキュラム) 「今何人?」「4人!」「次は8人になるで!」慣れ親しんだじゃんけん列車の遊びの中で、担任の教員が意識した言葉かけが子どもの関与を引き出します。 幼児期の学びとのつながり 初になると多くの面で言う字取り。「美しいだね」「どっちが大きい?」「らっぱはったよ」など、生活や遊びの中で言葉の感覚が身に付いています。 幼児教育とのつながり(生活科) 「どうやったら車がよく走るかな」グループのめあてに向かって話し合います。「坂道作ろう!」「そっち持って」と相談しながら角度や長さを整えます。 幼児期の学びとのつながり 毎々の興味関心から遊びが始まりクラス全体の取組になっています。グループの中で「最良作だね」「書物は私が書くよ」など協力する楽しさや大切さを感じ成長しています。

京都府幼児教育センターリーフレットより

<宇治っこ架け橋プログラム(宇治市版架け橋期のカリキュラム)の実施を踏まえた検証・改善>

宇治っこ架け橋プログラム(宇治市版架け橋期のカリキュラム)を実施する中で、子どもたちの姿を通じ、持続的・発展的なものとなるよう検証・改善をしていきます。その際に、スタートカリキュラムや5歳児のカリキュラム(アプローチカリキュラム)をはじめ、教育課程や指導計画等の検証・改善も含めて取組を進めていきます。

